



教えて！
営農さん

成功すれば生長が早く、丈夫に育つ 接ぎ木のススメ

2月、3月は果樹や春野菜などの接ぎ木の準備や穂木の確保をする良いタイミング。
接ぎ木で優良品種を増やし、収量アップにつなげましょう。

今回は、これから作業適期を迎える接ぎ木について、その利点や方法、管理の仕方についてお教えします！

【編集担当】

営農振興課 荒川 恵梨奈

「教えて！営農さん」では、農産物の栽培に関する情報をお届けします。



接ぎ木とは

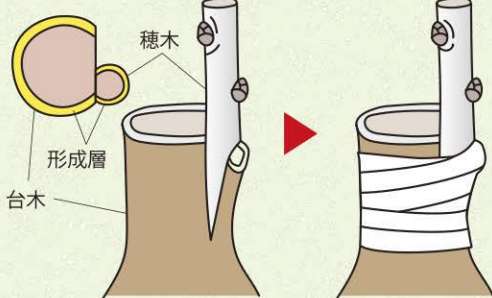
植物の一部分（枝、芽、根）を切り取って、他の植物につなぎ合わせ、繁殖させることです。育てたい植物を穂木、土台となる植物を台木といいます。

接ぎ木の利点

- 病害虫に強いなど、優良品種の特性を受け継ぐことができる
- 台木が最初から根付いているので、生長が早い
- 挿し木などで繁殖が難しい品種を増やすことができる

主な接ぎ木の接ぎ方（果樹の場合）

①挿し接ぎ



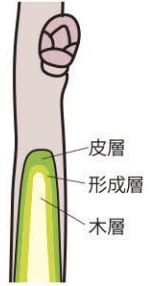
②呼び接ぎ



植物同士の相性が悪いと穂木と台木の両方が枯れてしまいます。相性を事前に調べてください。



接ぎ木を行う際は、接合部の乾燥や、水や雑菌の侵入に気をつけながら、穂木と台木の形成層を活着させることがポイントです。



接ぎ木用のテープやチューブ、クリップなど野菜苗用の資材も販売しています。ぜひお試しください。接ぎ木の方法についてご不明な点は、地区担当の営農指導員にご相談ください。



はじめての家庭菜園

スタミナ野菜の代表
ニラ

今回は、春に種をまき夏に収穫する野菜、ニラを紹介します。免疫力を高め、花粉症への効果も期待される栄養豊富な野菜。病気や害虫にも強く、最初の収穫から2〜3年続いて収穫が楽しめます。

①種まき

被せる土は、厚くなりすぎないように

コンテナの7〜8分目まで培養土を入れる。板や割り箸などを使って中央に、深さ5mm程度のまき溝を一本作る。重なり合わないように種をまき、両側の土を寄せて被せ、手のひらで抑えて種と土を密着させる。



②追肥・増し土

成長点には土を被せない

発芽後、草丈が10cmくらいに生長したら追肥を行う。肥料は「エコ追肥これだけ」ひとつまみを鉢土の表面に均一になるようにばらまき。その上から、ニラの成長点（葉の分かれ目）の下まで土を足す。肥料は月に1回程度施し、冬と夏は休む。



③収穫

20cm以上が収穫適期

草丈が20cm以上に育ったら収穫可能。成長点から上を切ると、切った部分から再び葉が成長する。1年目はあまり多くを収穫せずに、株を充実させると長く楽しむことができる。



丈が20cm以上に育ったら収穫の

ここに注意

● 栽培して2〜3年後、コンテナいっぱいになったら一度コンテナから出して、株分けする。

栽培のポイント

● 害虫・病気の心配がほぼなく、ニラを植えておけば虫が寄り付きにくい。

用意するもの

- 種 ● コンテナ ● 鉢底石
- 培養土 ● エコ追肥これだけ（有機配合肥料）

栽培カレンダー

2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種まき					収穫 2年目以降は、いつでも収穫可能					

参考文献：「コンテナでつくるはじめての野菜づくり」（新星出版）

